

令和4年第1回定例会（2月議会） 産業観光委員会・分科会 提出資料

令和4年2月24日
観光文化スポーツ部

【所管事項関連】

観光文化スポーツ部	秋田県観光振興ビジョン（案）について -----	1
交通政策課	秋田県地域公共交通計画（案）について -----	2
スポーツ振興課	第4期秋田県スポーツ推進計画（案）について -----	6

第1章 はじめに

- (1) 策定趣旨
観光は、関連する産業の裾野が広く、幅広い分野にわたって地域経済に波及効果をもたらす産業であるが、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした新たな旅行スタイルへの変化や、デジタル技術の進展等、時代の大転換期を迎えている。今後、社会情勢を踏まえながら、時代を先取りした取組の展開が求められており、アフターコロナを見据えた持続可能な観光産業を創り上げるため、新たな観光振興ビジョンを策定する。
(2) 計画期間
令和4年度～令和7年度(4年間)

第2章 観光の現状と課題

- 1 観光を取り巻く状況
○人口減少の進行による担い手不足の深刻化
○旅行ニーズの多様化と旅行スタイルの変化
○デジタル技術の進展による情報収集・発信手法の変化
○コロナ禍が及ぼす観光産業への深刻な影響
○訪日旅行需要の回復への期待
○SDGsの達成に向けた観光の役割への期待
2 本県観光の現状と課題
○観光産業の持続的発展に向けた生産性の向上
○県内滞留時間の拡大による観光消費額の拡大
○デジタル技術のノウハウ欠如や活用意識の改善
○個人化・細分化・個性化する旅行ニーズへの対応
○訪日旅行再開を見据えたインバウンド戦略の見直し
○観光を取り巻く環境の変化を踏まえた推進体制の見直し

第3章 目指す姿と施策体系

《目標・目指す姿》訪れる人のこころと地域を潤す持続可能な観光をめざして ~何度でも訪れたいくなるあきたの創出~

コロナ禍の中、旅行スタイルの変化に伴い、ゆとりがある地方が目ざされておられ、豊かな自然に抱かれ、先端技術や質の高い文化が共存し、人々がゆったりと暮らしている『高質な田舎』を標榜する本県は大きく飛躍するチャンスを迎えている。観光関連事業者はもとより、そこに暮らす人々が心一つにして、地域への誇りや愛着を持ちながら、訪れる人々の心を癒やし、何度でも訪れたいくなる持続可能な観光地域づくりをめざす。

Table with 4 main columns: 施策推進上の横断的視点, 観光産業の生産性向上, デジタル技術の効果的な活用, 旅行者の多様なニーズへの対応. It contains 5 rows of strategic measures with detailed sub-points and examples.

第4章 施策の推進体制

目標・目指す姿の実現のため、それぞれ取組主体が取組目標を意識した上で連携強化を図り、オール秋田により観光地域づくりを推進していく。

《取組主体の主な役割》

- 県民(地域住民) 県内の観光行事への積極的な参加や、観光客におもてなしの心で接することによる本県のイメージアップへの寄与
○観光関連事業者 旅行ニーズを踏まえた受入態勢整備による満足度向上や、体験メニュー等の商品開発による地域経済の活性化
○県観光連盟・各DMO・観光協会 各利害関係者との連携・協力体制の構築、マーケティングによるデータ分析による観光客の動態・ニーズの把握による観光地域づくりの実施
○行政(県・市町村) 各取組間の調整、地域住民への呼びかけ、観光振興を図るための計画に基づく各種施策の推進

第5章 地域における特色あるプロジェクト

各地域振興局管内の若い世代からの発案を元に取りまとめたプロジェクトであり、今後、その実現に向けた具体的な検討を行うことで、観光地域づくりを推進していく。

秋田県地域公共交通計画（案）の概要について

交通政策課



【計画区域】

1 計画の目的

秋田県として関係者が一丸となって目指すべき“地域公共交通のあるべき姿”や、その実現に向けて利用者が巻き込んで“総力戦”として取り組むべき具体的な事業、さらには、事業の進捗をチェックし、改善を重ね続けるための体制等を示すもの。

2 計画期間

2022年度～2026年度

3 計画区域

秋田県全域（6圏域ごとに課題等を整理の上、全域の方向性等を整理）

4 秋田県の地域公共交通の課題

1 将来の秋田の姿を見据えた地域公共交通ネットワークの構築が必要

- 人口減少等により地域公共交通の利用者は減少傾向
- 高齢化により運転免許返納者数は増加傾向（H28:2,543人⇒R2:4,048人）
- 交通空白地域又は交通不便地域が存在（17/25市町村が「ある」と回答）



【出典：「業務概要（令和2年版）」（秋田運輸支局）を基に作成】

2 財政的な制約を踏まえつつも、地域公共交通の維持・確保のみならず、活性化までも図ることが必要

- 移動手段として必要な地域公共交通の維持・確保が困難な状況

【交通事業者が運行している路線バス系統数】

年度	H28	H29	H30	R1	R2
系統数	289	283	281	263	259

- 運行経費等を支援する市町村の財政的負担は増加傾向

【市町村の公共交通に対する支援額：百万円】

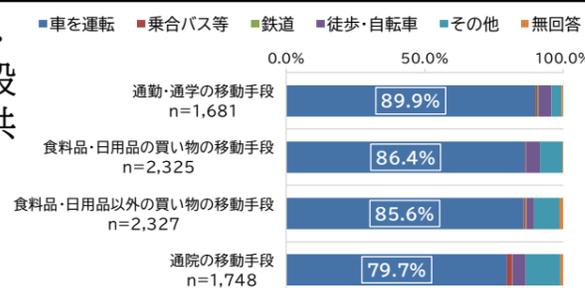
年度	H30	R1	R2
支援額	2,028	2,057	2,407

【いずれも県の聞き取りによる（左：バス事業者、右：市町村）】

3 地域公共交通への需要の十分な掘り起こしを通じて、過度な自家用車利用からの脱却が必要

【下グラフ：県民アンケート結果】

- 県民対象のアンケートにおいて、「通勤・通学」「買物」「通院」のための移動手段は「自家用車」が大部分を占め、地域公共交通の利用は極めて少ない。
- 高等学校へのアンケートでも、通学時の「バス」利用は限定的。



4 地域公共交通を利用する上での“わかりやすさ”の向上を図ることが必要

- バス等の運行本数が限られた地域が多く、積雪期には遅延も多い本県では、スマートフォン等から運行時間や経路を検索できるサービスの重要度は高い。
- これら運行情報のGTFSデータを交通事業者や市町村が自ら作成し、ネット上に継続して公開(オープンデータ化)する体制の整備と、運行位置情報の提供など更なるデータ活用策の推進が課題。

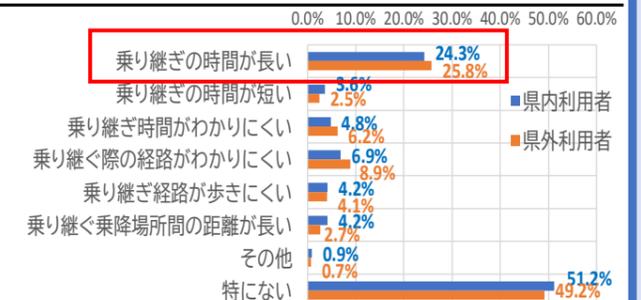


経路検索

5 地域公共交通の一体性を高めるため、交通結節点等における交通機関同士の接続性の強化が必要

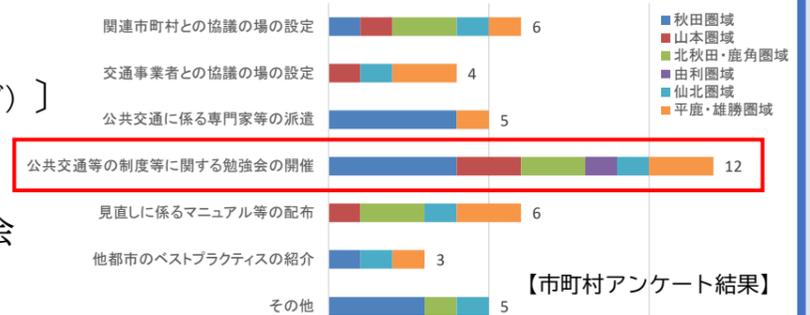
【下グラフ：乗り継ぎ実態調査結果】

- 県内及び県外在住者を対象とした乗り継ぎ実態調査において、「乗り継ぎ時に不便を感じたこと」のうち、「乗り継ぎの時間が長い」が最も多い。（特になしを除く）



6 地域公共交通を担う主体の運営体制（人的基盤）の確保・強化が必要

- 乗務員の減少・高齢化が顕著
〔主要バス3社（事業者ヒアリング）〕
〔人員 H29:575人⇒R3:468人〕
〔年齢 52.8歳⇒55.3歳〕
- 市町村アンケートでは「勉強会の開催」への要望が最多



【市町村アンケート結果】

5 基本理念・基本方針

基本理念

行政・事業者・地域が連携して支え合い、地域の活力を育む地域公共交通を目指す

基本方針

その1:持続可能で活気を育む地域公共交通

- ・行政、事業者、地域がそれぞれの役割を認識し、実践することで、持続可能性の高い地域公共交通を実現。
- ・生活・経済はもちろん、観光等の県内外との交流促進を担い、地域の活力の基盤となる地域公共交通を実現。

その2:活発な地域の創意工夫により成長し続ける地域公共交通

- ・県内各地域の創意工夫を促すことで、利便性の向上、利用者の増加が絶え間なく続く地域公共交通を実現。

その3:利用者・事業者双方にとってやさしい地域公共交通

- ・デジタル技術等の新たな技術や先進的な知見を積極的に取り込み、サービス水準の向上、運営体制の効率化を進め、利用者・事業者双方にとってやさしい地域公共交通を実現。

■上位計画

○新秋田元気創造プラン
(今年度策定予定)

■その他の関連計画

「秋田県観光振興ビジョン」
(今年度策定予定)を始め、地域公共交通の活性化と密接な関連がある都市計画、医療、福祉、教育など他分野の各種計画との整合性を図る。

■各市町村の地域公共交通計画

6 基本目標

〔目標1:地域公共交通ネットワークの維持・確保を通じた持続可能性の向上〕

- ・社会・経済生活にとって不可欠な地域公共交通ネットワークについて、交通事業者の努力、住民の積極的な利用、行政の的確な支援が相まって、維持・確保を図る。

○評価指標

- ・乗合バス路線の系統・区域数
- ・地域公共交通への公的資金投入額

〔目標2:”乗って守る”意識の醸成と”乗れる環境”の創出による過度な自家用車利用からの脱却〕

- ・地域公共交通を“乗って守る”という意識を醸成し、地域公共交通にアクセスできない人を可能な限り減らし“乗れる環境”を創ることを通じて、過度な自家用車利用からの脱却を図る。

○評価指標

- ・乗合バスの県民一人あたりの年間利用回数
- ・第三セクター鉄道利用者数

〔目標3:地域に活力をもたらす地域公共交通ネットワークの構築〕

- ・地域公共交通は、観光振興やまちの賑わい創出等にとっても不可欠であり、これらの施策とも積極的に関わりを持ち、双方にとってプラスとなるwin-winの関係を意識した施策を展開する。

○評価指標

- ・県内空港からの二次交通の利用者数

〔目標4:地域公共交通を元気にする地域の創意工夫の促進による利便性向上・利用者増〕

- ・県内各地域における、地域公共交通の利便性向上・利用者増につながる創意工夫の取組について、県として適切に支援する。

○評価指標

- ・県民意識調査における地域公共交通に対する満足度
- ・地域公共交通活性化チャレンジ事業申請団体数

〔目標5:新たな技術等の活用による、誰にとっても使いやすい地域公共交通への進化〕

- ・デジタル技術をはじめとした新たな技術等を積極的に取り込み、県民はもちろんのこと、県外からの観光客・ビジネス客にとっても使いやすいサービスの提供等を推進する。

○評価指標

- ・市町村等によるオープンデータ化実施率
- ・鉄道駅等におけるバリアフリー整備実施率

〔目標6:地域公共交通を支える運営基盤の強化〕

- ・地域公共交通の担い手である交通事業者、市町村に対して、安定的な運営を支える基盤の整備、先進的なノウハウ、知見等の蓄積を促す。

○評価指標

- ・乗合バス3社・三セク鉄道2社の収支率
- ・乗合バス3社の乗務員人員数 等

7 事業及び実施主体

〔目標1:地域公共交通ネットワークの維持・確保を通じた持続可能性の向上〕

①地域間幹線系統確保維持費補助金による継続的な支援

概要	○市町村間の移動を支える県民の重要な移動手段である地域間幹線系統を今後とも維持するため、引き続き国・沿線市町村と協調して補助を行うなど、財政的な支援を継続して実施します。
実施主体	県・国・市町村

②三セク鉄道への運営費補助、利用促進支援の継続【県・国・沿線市町村】

③三セク鉄道への施設修繕費の補助の継続【県・国・市町村】

④生活バス路線維持等補助制度による継続的な支援【市町村・県・国】

⑤交通ネットワークの維持・確保のための活性化協議会の柔軟な活用
【県のほか活性化協議会の各構成員】

⑥安全運行の徹底と更なる向上【交通事業者・業界団体】

〔目標2:”乗って守る”意識の醸成と”乗れる環境”の創出による過度な自家用車利用からの脱却〕

①「秋田県地域公共交通トップが乗って応援Day」の実施

概要	○秋田県では自家用車利用がますます進み、地域公共交通の利用者の減少の一因となっています。 ○地域公共交通の維持・確保を呼びかける立場の行政や交通事業者のトップ及び職員が積極的に地域公共交通を利用し、それをアピールすることで、地域公共交通利用に関する県民意識の醸成を図ります。
実施主体	県・市町村・国(運輸局)・交通事業者

②高等学校訪問キャラバンの実施【交通事業者・業界団体・国(運輸局)・市町村・県】

③「運転免許自主返納高齢者支援サービス」の継続【警察本部等】

【高等学校訪問キャラバンのイメージ】



【運転免許自主返納高齢者支援サービスについて】



(出典) 秋田県警察本部HP

【世界文化遺産「伊勢堂岱遺跡」と秋田内陸線】



【デジタルサイネージでの表示情報のイメージ】

西部市民サービスセンター発		
秋田中央交通・秋田市マイタウン・バス西部線		
時刻	行先	のりば
10:23	710西部サービスセンター発	のりば
10:30	712秋田駅西口行	のりば
10:35	720秋田駅西口行	のりば
10:35	722西部サービスセンター行	のりば
マイタウン・バス西部線		
10:20	8田上り行(石川 経由)	1
10:30	8田回り行	1
10:40	8田下り行(石川 経由)	1

〔目標3:地域に活力をもたらす地域公共交通ネットワークの構築〕

①観光地等へアクセスする二次交通の充実、PRの強化

概要	○県内の観光地等へのアクセス手段となる地域公共交通の充実、そして、そのアクセス性の維持・向上を図るため、主要な交通拠点、とりわけ、広域ゲート拠点からの移動手段の充実を図ります。 ○併せて、二次交通の利用方法を分かりやすくPRすることで、その認知度向上を図っていきます。
実施主体	交通事業者・市町村・県

②観光施策と連動したレンタカーの利用促進【県・レンタカー事業者】

③コンテンツプロバイダーへのGTFSデータの展開
【市町村・交通事業者・県】

④バスロケーションシステムやデジタルサイネージの導入促進
【県・市町村・交通事業者】

⑤貨客混載の推進【交通事業者・県】

〔目標4:地域公共交通を元気にする地域の創意工夫の促進による利便性向上・利用者増〕

①「地域公共交通活性化チャレンジ事業」の実施と活用促進

概要	○地域公共交通の利便性・効率性の向上や、利用促進につながる各地域における取組などに対する支援制度である、地域公共交通活性化チャレンジ事業を推進します。
実施主体	県・市町村・交通事業者

②先進事例など知見・ノウハウ獲得のための勉強会の開催【県・国（運輸局）】

③市町村や交通事業者による施策連携や関係強化を促すための協議のサポート【県】

④県内の知見共有、計画の実効的なフォローアップのための情報データベースの構築・共有【県・市町村・交通事業者】

〔目標5:新たな技術等の活用による、誰にとっても使いやすい地域公共交通への進化〕

①オープンデータ化の確実な実施と維持管理体制の構築

概要	○地域公共交通の運行情報等に係るデータについて、ダイヤ改正等に合わせた情報の更新やオープンデータ化に係る管理体制の構築により、オープンデータ化の徹底を図ります。
実施主体	市町村・交通事業者・県

②オープンデータ化を基にしたサービスの高度化【県・市町村・交通事業者】

③「地域公共交通活性化チャレンジ事業」の実施と活用促進(再掲)

④ICカード等の導入と利用可能エリアの拡大【秋田市・秋田中央交通・JR東日本・秋北バス】

⑤新たなモビリティサービスの導入【県・市町村・交通事業者】

⑥交通拠点等の利用環境改善の推進【交通事業者・市町村・県】

⑦ダイヤ改正情報の共有や乗継利便向上のための協議の場の設置による各主体間の連携強化【県・市町村・交通事業者】

〔目標6:地域公共交通を下支えする運営基盤の強化〕

②リクルート活動の強化に向けた取組の推進

概要	○交通事業者の安定的な運営基盤の構築に向けて、交通事業者や業界団体、国等が引き続き連携し、積極的なリクルート活動を行うとともに、県では運輸事業振興助成交付金の拠出等を通じて支援を継続します。 ○「女性活躍の環境整備」や「子育て支援」の観点にも着目し、多様な人材の確保に努めます。
実施主体	交通事業者・業界団体・国（運輸局）・県

①先進事例など知見・ノウハウ獲得のための勉強会の開催(再掲)

③デジタル技術等を積極的に活用した業務の効率化【交通事業者・業界団体】

【参考：2021年度に地域公共交通活性化チャレンジ事業で採択された取組】

秋田市

1. 買物タクシー

高齢者の移動手段確保のため、タクシー会社及びスーパー等と連携した「買物タクシー」の実証運行を実施。

2. バスロケーションオープンデータ化

バスの位置情報を公開し、乗換情報を提供。GPS端末等は市販部品を購入・組立て、オープンソース化されているプログラムを活用し、導入・運用費用を安価に。

秋田県立大学(由利本荘市)

1. タブレットによる乗り逢い交通予約システムの構築

①タブレット・モバイルWi-Fi機器の貸し出し

インターネット未契約、スマホ・タブレット等未所持世帯にタブレット・モバイルWi-Fi機器の貸出。

②相乗りシステムの構築

予約確定時点で登録利用者全員に対し、相乗りを呼びかけるメッセージを通知。

8 達成状況の評価

○計画の推進に当たっては、秋田県地域公共交通活性化協議会において、各事業の進捗のチェックや目標に対する成果の検証を行うとともに、必要に応じて見直しを図るなど、PDCAサイクルにより、事業の推進を図る。

「第4期秋田県スポーツ推進計画」(案)について～「スポーツ立県あきた」推進プラン2022-2025～

スポーツ振興課

《計画期間》 令和4年度から7年度までの4年間

第I章 計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨
2. 計画の位置付け
3. スポーツの意義と果たす役割
4. 第3期秋田県スポーツ推進計画の検証
5. 計画策定にあたっての視点
6. 施策の柱
7. 計画の期間
8. 目指す姿と計画の位置付け

第II章 「スポーツ立県あきた」推進のための取組

【 方向性 】

【 主な取組 】

<p>1 ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の促進</p> <p>ライフステージに応じた県民の多様なスポーツ活動を促進し、成人のスポーツ実施率について週1回以上が70%程度、週3回以上が30%程度となることを目指します。</p>	<p>(1) スポーツ参画人口の拡大とスポーツを通じた健康増進</p> <p>(2) スポーツを支える組織の充実と関係団体等との連携推進</p>	<p>県民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤となるよう、「新しい生活様式」を踏まえ、障害者、女性、高齢者などの多様な主体によるスポーツ活動を促進し、スポーツ参画人口の拡大を図るとともに、「健康寿命日本一」を目指し、スポーツを通じた健康増進を図ります。</p> <p>スポーツ大会・イベントの運営サポートを担う団体や組織等との連携強化による組織活動の充実やスポーツボランティアの普及を図るとともに、企業、大学との連携による地域のニーズに応じたスポーツライフの創出を図ります。</p>	<p>①成人の日常的なスポーツ習慣の確立</p> <p>[新] ②働く世代や女性のスポーツ参画の促進</p> <p>③障害者のスポーツ参画の促進</p> <p>④高齢者のスポーツ活動の推進</p> <p>⑤「健康寿命日本一」を目指した取組の推進</p> <p>[新] ⑥スマートフォンなどのデジタル技術を活用した運動機会づくり</p> <p>①秋田県スポーツ推進委員協議会との連携強化</p> <p>②(公財)秋田県スポーツ協会や(一社)秋田県障害者スポーツ協会、競技団体等との連携強化</p> <p>③スポーツボランティアの普及</p> <p>④大学や企業等との連携によるスポーツライフの創出</p>
<p>2 子どものスポーツ機会の充実による運動習慣の確立と体力の向上</p> <p>生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てるために、学校体育や放課後の地域における子どものスポーツ機会の拡充を図り、子どもの体力水準が昭和60年頃の水準を上回ることを目指します。</p>	<p>(1) 幼児期からの子どもの運動習慣づくりの推進</p> <p>(2) 学校体育の充実による運動習慣の確立と体力の向上</p> <p>(3) 子どもを取り巻くスポーツ環境の充実</p>	<p>子どもが生活や遊びを通してスポーツに親しむ環境を充実させるほか、保育者など子どもの運動づくりに関わる指導者等への研修を実施して、発達段階に応じた子どもの運動習慣づくりを推進します。</p> <p>教員の指導力の向上、地域人材の活用による体育・保健体育学習の充実や運動部活動の活性化を図るなど、運動好きな児童生徒を育てるとともに、学校教育活動全体を通じて運動習慣の確立と体力の向上を目指します。</p> <p>子どもがいつでも・どこでもスポーツに取り組むことができるよう、総合型クラブ等の地域スポーツ環境の充実を図り、子どものスポーツ機会を拡充します。</p>	<p>①「幼児期運動指針」や「ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)」等の普及による運動習慣づくりの推進</p> <p>②県内トップスポーツチームの選手等による幼稚園等への訪問</p> <p>③総合型クラブでの子どものスポーツ教室等の開催の促進</p> <p>①体育・保健体育学習の充実</p> <p>②運動部活動の活性化</p> <p>③教科外体育の充実</p> <p>④「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果の活用</p> <p>①総合型クラブとスポーツ少年団・運動部活動等との連携推進</p> <p>②地域人材を活用した部活動指導員等の指導体制の充実</p> <p>③放課後における子どものスポーツ機会の充実</p>
<p>3 スポーツを通じた地域づくりと交流人口・関係人口の拡大</p> <p>観光との連携によりスポーツを通じた交流の拡大を図るとともに、東京オリ・パラ等の国際大会を契機とした交流を継続するほか、トップスポーツチーム等の関係団体との連携を強化することにより、地域の一体感の醸成と活力ある地域社会の実現を目指します。</p>	<p>(1) スポーツを活用した地域づくりの推進と交流人口・関係人口の拡大</p> <p>(2) トップスポーツチームと地域との連携・協働の促進</p>	<p>活力ある地域づくりの促進とスポーツによる交流人口・関係人口の拡大を図るため、合宿やスポーツ大会等の誘致に加え、観光との連携を図りながらスポーツツーリズムを推進します。</p> <p>トップスポーツチームへの支援を通じた、応援機運の高まりによる地域一体感の醸成や本県の情報発信を行うとともに、トップスポーツチームの地域密着活動によるスポーツ参画人口のすそ野の拡大を図ります。</p>	<p>①地域資源を活用したスポーツ大会等の企画・開催と、スポーツツーリズムの推進</p> <p>②各種スポーツイベントやスポーツ合宿等の誘致・支援</p> <p>[新] ③オリンピック(パラリンピック)レガシーを生かした交流の推進</p> <p>①トップスポーツチームの発信力を活用した情報発信</p> <p>②スポーツ観戦機会の拡充による地域の一体感の醸成</p> <p>③トップスポーツチームの地域活動の促進によるスポーツ参画人口のすそ野の拡大</p>
<p>4 全国・世界で活躍できるアスリートの発掘と育成・強化</p> <p>国際競技大会等において優れた成績を挙げるとともに、県民に夢や希望を与えるアスリートを発掘・育成し、オリンピックにつながる日本代表レベルの選手や、国民体育大会における上位入賞者を輩出することで、国民体育大会における天皇杯順位10位台(天皇杯得点1,000点以上)の成績を目指します。</p>	<p>(1) 競技力の向上と次世代アスリートの発掘・育成</p> <p>(2) 競技力向上を支える人材の育成と環境整備</p> <p>(3) クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上</p>	<p>国際競技大会等で優れた成績を挙げられる選手を発掘・育成するため、特にジュニア層の強化を競技力向上の柱として、各競技団体や関係機関、地域との連携を図りながら一貫指導体制を確立します。</p> <p>優れた指導者を確保・育成するほか、審判員を養成するとともに、最新のスポーツ医・科学、データ等を活用した選手の強化支援体制を充実させます。</p> <p>本県スポーツ界の誠実性・健全性・高潔性を高め、クリーンでフェアなスポーツを推進することにより、スポーツの価値の一層の向上を目指します。</p>	<p>①県スポ協や関係団体と連携した選手強化</p> <p>②将来有望なアスリートを発掘・育成するためのタレント発掘事業の推進</p> <p>③全国や世界で活躍できるアスリートやチームへの支援</p> <p>[新] ④女性アスリートへの支援</p> <p>⑤障害者アスリートへの支援</p> <p>⑥アスリートの就職支援体制の充実</p> <p>①指導者及び審判員の育成・資質向上</p> <p>②秋田県スポーツ科学センターの機能強化による、スポーツ医・科学や様々なデータを活用したトップアスリートへの多面的で高度な支援</p> <p>③障害者アスリートに対応した競技環境の整備と指導者育成</p> <p>①アスリートの倫理観や規範意識を含めた人間的成長を促すことのできる指導の推進</p> <p>②スポーツ関係者のコンプライアンス違反や体罰、暴力の根絶に向けた研修等の充実と競技団体のガバナンス強化</p> <p>③関係機関と連携したドーピング防止活動の推進</p>
<p>5 スポーツ活動を支える人材の育成と環境の整備</p> <p>スポーツ施策を推進するマネジメント人材の資質向上とスポーツ団体の運営の充実を図ります。</p> <p>また、スポーツ施設の計画的な整備・改修を行うほか、老朽化が進む施設の建て替えについて検討を行うなど、県民のスポーツ活動の基盤を整備します。</p>	<p>(1) 総合型クラブの質的充実と地域スポーツ指導者及びスポーツマネジメント人材の充実</p> <p>(2) スポーツ施設の充実とスポーツに親しむ環境の整備</p>	<p>総合型クラブと関係機関等との連携を図るとともに、総合型クラブに係る制度を整備し、質的充実を図ります。また、スポーツ推進委員等の地域スポーツ指導者やスポーツマネジメント人材の研修機会の充実により更なる資質の向上を図ります。</p> <p>スポーツ施設の計画的な整備・改修、環境整備を行うとともに、老朽化が進む体育館の建て替えの検討を行うなど、幅広い県民がスポーツに親しみ、トップスポーツが本県に根ざして活動する環境の整備を推進します。</p>	<p>[新] ①登録・認証制度の導入による総合型クラブの質的充実</p> <p>②地域のスポーツ活動を担う団体の活動支援</p> <p>③スポーツマネジメント人材の研修機会の充実による資質向上</p> <p>④障害者スポーツ指導者等の育成</p> <p>①計画的な既存施設の整備・改修</p> <p>②新スタジアムの整備に向けた関係団体等との連携による取組推進</p> <p>③バリアフリーに配慮した誰でも利用しやすい施設の整備</p> <p>④民間資金等を活用した管理運営や収益力向上による、持続的なスポーツ環境の確保</p>

第III章 施策の総合的かつ計画的な推進のために必要な事項

1. 計画実現に向けた体制
2. 計画の進捗状況の定期的な検証
3. 第4期秋田県スポーツ推進計画の施策の数値目標